

平成28年度 第1回豊田市環境審議会 会議録

- 【日時】** 平成28年4月26日(火) 午前10時00分～正午
【場所】 豊田市役所 南庁舎 南51会議室
【出席者】
(委員)
- | | |
|--------|--|
| 梅村 豊作 | (市民公募) |
| 篠田 陽作 | (名古屋経営短期大学子ども学科 講師) |
| 島田 知彦 | (愛知教育大学教育学部 講師) |
| 杉野 和志 | (豊田商工会議所第2工業部会 副部会長) |
| 杉山 佐江子 | (市民公募) |
| 杉山 範子 | (名古屋大学大学院環境学研究科
附属持続的共発展教育研究センター 特任准教授) |
| 高野 雅夫 | (名古屋大学大学院環境学研究科 教授) |
| 谷口 功 | (椛山女学園大学人間関係学部 准教授) |
| 千頭 聡 | (日本福祉大学国際福祉開発学部 教授) |
| 福間 陽子 | (NPO 法人とよたエコ人プロジェクト) |
| 光岡 金光 | (豊田市自然愛護協会 会長) |
| 築瀬 孝之 | (豊田商工会議所第1工業部会 部会長) |
| 山内 徹 | (市民公募) |
| 山田 恭江 | (とよたエコライフ倶楽部 運営委員長) |

(事務局) 高橋環境部長、加藤環境政策課長、太田ごみ減量推進課長、
近藤環境保全課長、河合廃棄物対策課長、兼子清掃業務課長、
岩田清掃施設課長 他

- 【欠席者】**
(委員)
- | | |
|-------|----------------------|
| 大熊 千晶 | (日本野鳥の会) |
| 加藤 博和 | (名古屋大学大学院環境学研究科 准教授) |
| 須賀 伸人 | (あいち豊田農業協同組合 常務理事) |
| 前田 洋枝 | (南山大学総合政策学部 准教授) |

【傍聴人】 なし

- 【次第】**
- 1 委嘱状交付
 - 2 市長あいさつ
 - 3 委員紹介
 - 4 議題
 - (1) 会長及び副会長の選任
 - (2) 諮問について
 - (3) 環境審議会の運営について(報告)
 - (4) 現行計画の進捗状況と本市を取り巻く社会環境の変化について(報告)
 - (5) 環境基本計画の改訂方針及び環境審議会の進め方について(報告)
 - (6) 災害廃棄物処理計画の見直しについて(報告)
 - 5 その他

1 委嘱状交付

2 市長あいさつ（要約）

市長： 本日は、大変お忙しい中、第1回環境審議会にご出席いただき、ありがとうございます。

今回発生した熊本の震災を受け、職員の派遣とともに物資を支援した。豊田市からもブルーシートや土のう袋などを提供したが、現場では大変感謝された。現場で何を必要としているか、情報収集して対応にあたりたい。

最近では、温暖化の影響だと考えられるが、依然と比べ雨の降り方なども変わってきている印象である。様々な災害対応を考えていく必要を感じている。温暖化への適応という視点で、外部給電できる次世代自動車にできるだけ公用車を買替えて、非常時に備えようとしている。こういった動きを含め、名古屋大学のアドバイスを受けながら、豊田市だけではなく、岡崎市、安城市、知立市、みよし市の5市の市長が今年の12月に集まって「首長誓約」という形で確認した。5市で連携しながら、この圏域の安全確保のために足並みそろえてやっていこうとしている。

環境審議会では、ごみ屋敷条例に関してご意見をいただいた。引き続き豊田市の環境行政はもちろんのこと、環境行政から派生する様々なことについて忌憚のないご意見をいただきたい。

3 委員紹介

一人ずつ自己紹介

4 議題

(1) 会長及び副会長の選任

会長に千頭聡委員を選任

副会長に光岡金光委員を選任

(2) 諮問について

豊田市長から会長に豊田市環境基本計画、豊田市地球温暖化対策実行計画、豊田市一般廃棄物処理基本計画の改訂について、諮問書を伝達

(3) 環境審議会の運営について（報告）

事務局： （資料1に基づき、説明）

(4) 現行計画の進捗状況と本市を取り巻く社会環境の変化について

事務局： （資料2に基づき、説明）

A 委員： 3つの重点プロジェクトのうち、重点プロジェクト1は他の項目に比べ未達成の項目が多い。様々な制度や促進事業などを市民が利用するのに、システムとして複雑であることや使いづらいなどの要因が推察される。内容を変えていこうとか簡単なものにしようとか、改善の方向は持っているか。

事務局： CO2排出量や電力使用量の削減などは目に見えて効果が現れにくく、難しい。現在、具体策はないが、できることから市民とともにやっていきたい。

B 委員： もちろん目標値未達の原因の把握は大切だと思う。原因をある程度把握しておくことが、次の対策を考えるうえで、重要だと思う。電力使用量を減らすという目標値になっているが、化石燃料由来の電力の使用量を減らすという

観点であるべき。再生可能エネルギーやCO₂を出さない電力であり、地域で作られたものであれば、積極的に利用していけば良いと思う。これから新たに作るものについては、目標設定について考え直していく必要があると思う。

- 会 長： 森林による吸収源の整備の議論ができるのが、豊田市の強みである。
- C 委員： 市の7割が森林で、その半分は人工林なので、その整備で吸収源とすることはできる。そちらは着実に進んでいると思う。
- D 委員： 自然共生の分野は市民も参加しやすい。最近では、食品廃棄物の問題がある。生産される食料の2〜3割は廃棄されているが、食料生産にもエネルギーを使っており、それを捨てていると考えると、非常に無駄の多い部分である。これまでの方向性とは少し違った観点である。これについて、フランス政府は食料廃棄物ゼロを表明しており、このような問題を新しい環境問題として豊田市も考えていくべき。
- E 委員： 現行計画策定時の「次世代自動車」は、具体的に何を指しているか。現在では水素自動車もあり、一般の自動車の燃費も良くなっている。これらは計算には入っていないのか。
- 事務局： 策定時の次世代自動車には燃料電池自動車、プラグインハイブリッド車、電気自動車、ハイブリッド車などを想定している。ハイブリッドでもなく燃費の良い車などは算定には含まれていない。
- 会 長： 大事な指摘だと思う。次の計画を作る際には「次世代」という抽象的な表現ではなく、定義をはっきりさせるべきである。

(5) 環境基本計画の改訂方針及び環境審議会の進め方について

- 事務局： (資料3に基づき、説明)
- F 委員： 専門部会に分かれて審議ということだが、資料2では社会環境の変化として「災害対策の強化」が示されているが、これを受ける形で、部会でも取り上げるということか。
- 事務局： 大事な視点になってくるので、部会で審議いただきたい。
- G 委員： 防災基本条例との関連、連携すべき事項はあるか。
- 事務局： 計画の中に防災の視点も入れていくべき時代だと思うので、検討していきたい。
- G 委員： 「安全・安心な社会」という言葉は防犯でも交通安全でもよく使われるが、イメージが湧きにくい。何を指しているか。
- 事務局： 環境分野における「安全・安心な社会」は、大気汚染、水質汚染など、いわゆる公害分野を想定している。
- 会 長： 国の環境基本計画では、東日本大震災後、「安全・安心」をひとつの柱として追加されている。「安全・安心」をベースとした4本柱になっており、低炭素も自然共生も循環も「安全・安心」につながっていくものだと認識している。3部会を作るとのことだが、「共働の推進」と「安全・安心」はどうやって議論するつもりか。横断的な部分もあると思うが、部会の中で議論されない懸念もあるので、可能であれば環境審議会の中で議論できると良いと思う。
- 事務局： 了解した。
- F 委員： 第8次総合計画に基づき、という説明があったが、「共働」は7総の大きな特徴であり、8総では変わるかもしれない。今回提案された案の中に「共働」も位置づけられているので、それを継続するのか、8総の柱に沿って、環境基本計画の柱も変えていくのか。
- 事務局： 環境基本計画については、「安全・安心」や「共働」の視点は欠かせない。8

総がどのような柱立てとなっても残していきたいと考えている。

- C 委員： 基本理念に「持続可能な社会を目指します」とあるが、「持続可能な社会」とは何か。持続可能な社会であるための低炭素社会はどうあるべきか、などの理念の部分をしっかり議論したい。パリ協定では持続可能な社会について踏み込んで議論された。理念に裏付けられた低炭素の目標などを決めたい。生物多様性についても人間が活用することで多様な生態系が保たれるということを目指していくなど、踏み込んで議論したい。こういったことはなかなか部会では議論しようがないので、事務局には工夫してもらいたい。
- 会 長： 共通部分については審議会で議論できるように、議題として設定していただきたい。
- 事務局： まずは基本理念があって、分野別の検討が進むものだと思っている。了解した。
- 会 長： 委員が、自分の所属以外の部会にコメントを出したり出来るような仕組みを考えて欲しい。
- 事務局： 取り入れられるよう工夫をしたい。全体で情報共有していけるようにしたい。

(6) 災害廃棄物処理計画の見直しについて

- 事務局： (資料4に基づき、説明)
- H 委員： 災害廃棄物処理計画は、自所で発生したものを自所で対処していくという考え方の計画で良いか。
- 事務局： 豊田市は近隣自治体と比べて被害想定が小さいので、自分のところで発生したものは自分のところに対応していくのが原則である。
- H 委員： 沿岸部の津波廃棄物等の受け入れはこの計画には反映されているか。
- 事務局： 近隣自治体への支援については、愛知県と協議の上、必要があれば内容の見直しをしていく。
- G 委員： 豊田市の災害廃棄物量が岡崎市・安城市より小さいのはなぜか。
- 事務局： 津波被害がなく、地盤が比較的固いというのも被害想定が少ない要因のひとつと聞いている。
- G 委員： 断層から外れているということか。
- 事務局： 南海トラフ地震を想定しており、南部のほうが震度が大きいと想定されているため、南に位置する岡崎市等の被害が大きいものと推定している。
- 会 長： 一次仮置き場必要面積は、一部の地区を除いて十分足りているということだが、ごみの一次仮置き場としてだけ使えるのか。避難場所や仮設住宅の候補地として利用する場合もあるのでは。
- 事務局： 中には重なっているところもある。当初は一時的な避難場所として利用した後、落ち着いたところで仮置場というように、内容については今後調整していくという計画になっている。また、資料の数値が一部誤っているので訂正をお願いしたい。
- 会 長： この災害廃棄物処理計画は、一般廃棄物処理基本計画に上乘せしていくということか。
- 事務局： 一般廃棄物処理基本計画の中に施設管理計画があるので、それに関連を持たせて検討していく。

5 その他

- D 委員： 「共働きの推進」と「安全・安心」を、3つの重点分野に対してどうやってクロストークしていくかを初めに考えておく必要がある。委員個人の考えを各

部会に対して提出し、それを踏まえて検討し、その結果を全体会で協議をするなど必要ではないか。

- 事務局： 「共働の推進」では、例えば環境学習等について書いていくことになるが、3分野すべてに関わるので、部会でも審議会でも審議いただく必要がある。次回開催は部会になるので、部会の中で進め方について説明させていただく。
- 会長： 共通する事項であるため、審議会と部会での議論をうまく組み合わせていけるようにしたい。
- C委員： 環境部だけでなく、他の部署の方がいないと議論が進まないことがある。自然共生で言えば矢作川研究所や森林課、農政課等も議論に参加してもらいたい。部署をまたいだ検討体制はどのようになっているか。
- 事務局： 庁内検討部会を立ち上げる。その中で環境部以外の各課にも関与してもらおう。

以上 平成28年度第1回豊田市環境審議会 終了